

筑波技術大、高工研<sup>A</sup>、核融合研<sup>B</sup>、総研大<sup>C</sup>、国文研<sup>D</sup>、分子研<sup>E</sup>、名大<sup>F</sup>、東京福祉大<sup>G</sup>  
 高岩義信、関本美知子<sup>A</sup>、三浦靖子<sup>A</sup>、菊谷英司<sup>A C</sup>、難波忠清<sup>B</sup>、松岡啓介<sup>B C</sup>、  
 寺嶋由之介<sup>B F</sup>、大林治夫<sup>B</sup>、藤田順治<sup>B C</sup>、木村一枝<sup>B</sup>、花岡幸子<sup>B</sup>、平田光司<sup>C</sup>、  
 五島敏春<sup>D</sup>、木村克美<sup>E</sup>、安倍尚紀<sup>G</sup>

### Sharing Catalog Information of Archives of Inter-University Research Institutes

NTUT, KEK<sup>A</sup>, NIFS<sup>B</sup>, Soken-dai<sup>C</sup>, NIJL<sup>D</sup>, IMS<sup>E</sup>, Nagoya Univ.<sup>F</sup>, TUSW<sup>G</sup>,  
 Y.Takaiwa, M.Sekimoto<sup>A</sup>, Y.Miura<sup>A</sup>, E.Kikutani<sup>A C</sup>, C.Namba<sup>B</sup>, K.Matsuoka<sup>B C</sup>,  
 Y.Terashima<sup>B F</sup>, H.Obayashi<sup>B</sup>, J.Fujita<sup>B C</sup>, K.Kimura<sup>B</sup>, S.Hanaoka<sup>B</sup>, K.Hirata<sup>C</sup>,  
 H.Gotoh<sup>D</sup>, K.Kimura<sup>E</sup>, N.Abe<sup>G</sup>

総合研究大学院大学（総研大）では「大学共同利用機関の成立に関する歴史」を共同研究プロジェクトとして実施している。物理学関連の研究機関には共同利用を謳うものが多いがその成立の経緯を、総研大の基盤である大学共同利用機関法人を構成する研究所を中心に研究するものである。このプロジェクトではその研究に各研究機関にアーカイブズ（史料館）が必要であるとしてその設置を支援し、アーカイブズ史料を統一的に検索可能にして史料情報の共有化の実現をはかるプロジェクトをすすめる。

アーカイブズの史料が広く活用されるためには「検索手段 Finding Aids」と呼ばれる史料の目録情報（メタデータ）がデータベース化され利用しやすい方法で提供されることが必要である。「検索手段」記述の国際的な標準化がすすめられており、情報技術の発達にともないその計算機コード化の国際標準 Encoded Archival Description (EAD) が提案され承認されつつある。総研大のプロジェクトではこれを採用し、複数の研究機関に設置されると想定するアーカイブズの史料情報を一括して検索できるものにしようとしている。

高エネルギー加速器研究機構 (KEK) および核融合科学研究所 (NIFS) の史料室やアーカイブ室に加え、分子科学研究所 (IMS) にも史料編纂室がおかれ、これらの研究機関の成立の経緯と運営管理の記録および関連研究分野の活動の歴史に関わる史料等の収集・整理を進めている。また、国文学研究資料館（国文研、NIJL）のアーカイブズ研究系には、すでに日本史関係の史料情報を統一的に扱うインターネットでアクセス可能なサーバーがあってそれをベースに EAD 化がすすめられている。これらのすべては総研大の基盤研究機関であるがそこで進められている活動を統合してこのプロジェクトが発展してきている。

総研大のプロジェクトの当面の目標は、KEK、NIFS および IMS の史料情報をプロトタイプとして利用し、市販のデータベースソフトウェア（Filemaker Pro など）で蓄積される各研究機関の史料情報を、国文研の「史料情報共有化」の方式に倣って、EAD の記述（SGML で定義され XML で実現される）に変換するシステムティックな方法を確立する。それを適切なサーバーに置いて共通のアクセスポイントからアクセス可能な情報検索システムを構築することを試みることである。それが実現すれば、多様な史料情報、たとえば特定の研究者の個人業績の資料を持つ資料室と大学共同利用機関のアーカイブズの史料情報が共通のプラットフォームから検索することも可能になる。さらには日本史関連の文書館 / アーカイブズの史料情報であるとか世界中のアーカイブズへのアクセスを支援するサイトに登録すれば地球上のどこからでも検索が可能になるものである。